

骨髄抑制  
CARE

## がん治療による「血液の変化(骨髄抑制)」を乗り越えるためのアドバイス

愛媛大学医学部附属病院  
腫瘍センター長  
薬師神 芳洋 先生愛媛大学医学部附属病院  
看護部  
がん化学療法看護認定看護師  
森 奈月 先生

## 抗がん剤による骨髄抑制とは？

骨髄は、身体の中で血液を作る役割を担っています。その機能が、抗がん剤により抑制されると、赤血球や白血球、血小板などの血液の成分が減少し、さまざまな症状を引き起こします。

骨髄抑制は、特に壊死性抗がん剤（パクリタキセル、ドセタキセル、ダウノルビシン、エピルビシンなど）で多くみられますが、抗がん剤の種類や投与量、患者さんの年齢や体調等により、骨髄抑制の程度に個人差があります。

## 骨髄抑制の種類

## 白血球数の減少

骨髄抑制でいちばん多くみられるのが白血球数の減少です。

白血球は身体に入ってきた異物（細菌やウイルスなど）を排除する役割を担っています。

白血球の数が減少すると、身体の抵抗力が下がり、感染症にかかりやすくなりますので、感染症の予防に努めましょう。

抗がん剤投与後1~2週間で最も数が減少し、その後1~2週間で回復します。

## 血小板数の減少

血小板は血管の破れた部分に集まり、血液を固めて血を止める役割を担っています。血小板の数が減少すると、出血しやすくなったり、血が止まりにくくなりますので、出血の予防・対策をしましょう。

抗がん剤投与後1週間から減少し、2~3週間程度で回復します。

## 赤血球数の減少

赤血球は身体中に酸素を運び、二酸化炭素を持ち帰る役割を担っています。赤血球の数が減少すると貧血になりやすくなります。貧血時のふらつきなどの症状に備えましょう。

抗がん剤投与後2週間から緩やかに減少し、緩やかに（数週間で）回復します。